

SCCP を使用するATA 186 を認識するための Cisco CallManager の設定方法

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[ネットワーク図](#)

[表記法](#)

[Cisco ATA 186 に Cisco CallManager の IP アドレスを設定](#)

[自動登録を使用して ATA 186 を認識するために Cisco CallManager 3.0、3.1、3.2、または 3.3 を設定して下さい](#)

[Cisco CallManager 3.0、3.1、3.2、または 3.3 で ATA 186 デバイスが認識されていることの確認](#)

[Cisco CallManager 3.0、3.1、3.2、または ATA 186 を認識する 3.3 のマニュアル設定](#)

[Cisco ATA 186 が Cisco CallManager に登録されていることの確認](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[エラー： DeviceTransientConnection -一時接続の試み](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、「Skinny」とも呼ばれる Skinny Client Control Protocol (SCCP) を使用して、Cisco CallManager と Cisco Analog Telephone Adapter (ATA) 186 とが相互運用できるよう設定する方法について説明します。Cisco ATA 186 は 2 ポートのアナログ電話アダプタであり、session initiation protocol (SIP; セッション開始プロトコル)、H.323、Media Gateway Control Protocol (MGCP; メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル)、または SCCP を使用して、他の VoIP デバイスと接続できます。ATA 186 の詳細については、『[データシート - Cisco ATA 186 アナログ電話アダプタ](#)』を参照してください。

Cisco Unified CallManager 環境では、H.323 か SCCP は Cisco Unified CallManager と ATA 186 間の通信に使用するプロトコルです。ただし、この資料で、ATA 186 と SCCP を使用する Cisco Unified CallManager 間の通信だけ説明されています。

このドキュメントでは、ATA 186 に Cisco CallManager の IP アドレスを設定する方法と、SCCP プロトコルを使用して、Cisco CallManager に ATA 186 を登録する 2 つの方法 (自動登録と、手作業による登録) について説明します。

前提条件

要件

この設定を開始する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- Cisco ATA 186 に Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) サーバから、IP アドレスとデフォルト ゲートウェイ アドレスが割り当てられていることと、Cisco ATA 186 と Cisco CallManager との間にネットワーク接続が行われていることを確認してください。DHCP をディセーブルにして、次のように固定 IP アドレスを設定することもできます。ポート 1 に接続する電話で受話器を取り、ATA 186 (ポートがオフフックのとき) レッドに光るの **menu ボタン** をユニットの上の CLEAR ボタン押して下さい。20# を押し、次に DHCP をディセーブルにするために 0# を押して下さい。1# を押し、次に IP アドレスを入力するために適切な keys を押して下さい。たとえば、10*10*10*2#。10# を押し、次にネットワークマスクを入力するために適切なキーを押して下さい。たとえば、255*255*255*0#。2# を押し、次にデフォルトルータの IP アドレスを入力するために適切なキーを押して下さい。たとえば、10*10*10*1#。エントリを検討して下さい。IP アドレスを確認するために、21# を押して下さい。ネットワークマスクを検討するために、23# を押して下さい。デフォルトルータ IP アドレスを確認するために、22# を押して下さい。ATA 186 に参照して下さい。たとえば、http://<ip_address_of_ATA>/dev. ip_address_of_ATA が ATA の IP アドレスであるところ。注: 詳細については [Cisco ATA 186 基本設定](#) を参照して下さい。
- ATA 186 に SCCP ソフトウェア バージョンがロードされていることを確認してください。ATA 186 の工場出荷時に H.323/SIP イメージがインストールされている場合は、SCCP の zip ファイルで提供されている SCCP イメージを使用してロードする必要があります。ATA 186 にネットワーク PC の実行可能なアップグレード プログラム (ata186us.exe) の使用によってこれをして下さい。注 : この操作の詳細については、『[Cisco ATA 186 基本設定](#)』を参照してください。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco CallManager バージョン 3.0(10) 以降
- Cisco ATA 186 バージョン 2.12.ms ata186 (Build 020124a)

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

ネットワーク図

このドキュメントでは、次のネットワーク構成を使用しています。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

Cisco ATA 186 に Cisco CallManager の IP アドレスを設定

次の手順を実行して、Cisco ATA 186 に Cisco CallManager の IP アドレスを設定します。

1. Cisco ATA 186 の IP アドレスを確認します。ATA 186 に接続されている電話をオフフック状態にします。ATA 186 の上面にある赤いボタンを押します。設定メニューを再生する interactive voice response (IVR; 対話式音声自動応答) が聞こえてきます。電話のボタンから、80# を押します。IVR から ATA 186 の IP アドレスが再生されるのが聞こえてきます。
2. Cisco ATA 186 の IP アドレスを知っていれば、ATA 186/dev の http://IP アドレスで Web ブラウザとそれに接続できます (たとえば: http://172.16.1.2/dev)。
3. CA0orCM0 フィールドに、プライマリ Cisco CallManager の IP アドレスを入力します (この例では 172.16.1.3)。**CA0orCM0 フィールド**: このフィールドでは、TFTP サーバの IP アドレスを指定します。必要な Cisco CallManager の IP アドレスとポート番号を TFTP サーバから取得できない場合は、CA0orCM0 に、ATA 186 が起動するときに登録される (SCCP クライアントとして) プライマリの Cisco CallManager の IP アドレスとポート番号を指定します。注: ポート番号を指定しないと、ATA 186 では Cisco CallManager とのコンタクトにデフォルトポートである 2000 を想定します。異なるポート数が規定される必要がある場合 ATA 186 の IP アドレスとして入ります: コロンを使用するポート番号 (分ける:) ポート番号から IP アドレスを。**CA1orCM1 フィールド**: セカンダリの Cisco CallManager の IP アドレスとポート番号を指定します。必要に応じて、プライマリの Cisco CallManager で説明したのと同じ方法でセカンダリの Cisco CallManager の IP アドレスを入力します。
4. [Apply] をクリックします。注: 注: CA0UID フィールドと CA1UID フィールドは、SCCP モードには関係ありません。この操作の詳細については、『[Cisco ATA 186 インストールと設定ガイド](#)』を参照してください。

[自動登録を使用して ATA 186 を認識するために Cisco CallManager 3.0、3.1、3.2、または 3.3 を設定して下さい](#)

次の手順に従って、Cisco CallManager 3.0、3.1、3.2、または 3.3 を、自動登録を使用して ATA 186 を認識するように設定します。

1. System > Cisco CallManager の順に選択することによって始動に Cisco Unified CallManager に CallManager Administration 画面 ログインして下さい。
2. Cisco CallManager の設定画面が表示されます。次の情報を入力します。Cisco CallManagers の下で、Cisco CallManager の IP アドレスをクリックして設定します (この例では、172.16.1.3)。Starting Directory Number と Ending Directory Number を入力します。この例では、Starting Directory Number は 1000、Ending Directory Number は 2000 です。デフォルトでは、Auto Registration はデisableになっています。これをイネーブルにするには、Auto-Registration Disabled on this Cisco CallManager チェックボックスをクリックします。設定が終了したら、Server Information の上にある Update をクリックします。

[Cisco CallManager 3.0、3.1、3.2、または 3.3 で ATA 186 デバイスが認識されていることの確認](#)

次の手順に従って、Cisco CallManager 3.0、3.1、3.2、または 3.3 で ATA 186 デバイスが認識されていることを確認します。

1. Cisco CallManager Administration メニュー棒から、Device > Phone の順に選択し、始動に Cisco Unified CallManager に接続されるすべての項目のリストが掲載してある Find and List 画面を『Find』 をクリックして下さい。注: 必要に応じて、検索対象の MAC アドレスを指定することで、特定の電話を検索する範囲を狭めることができます。
2. ATA 186 が Cisco CallManager に登録されていることを確認します。ATA 186 の場合、フィールドは次のようになります。Device Name フィールドと Description フィールドの下に、Cisco ATA 186 の MAC アドレスが表示されています。Cisco CallManager の IP アドレスは Status の下にあります。Cisco ATA 186 の IP アドレスは、IP Address の下にあります。

Cisco CallManager 3.0、3.1、3.2、または ATA 186 を認識する 3.3 のマニュアル設定

Cisco CallManager を ATA 186 を認識するよう設定した場合、3.0、3.1、および 3.2 の間でいくつかの違いがあります。この例では、これらの違いを斜体で示します。スクリーン ショットは主にバージョン 3.2 から取得したものです。ただし、スクリーン ショット間で大きな違いがある場合は、両方のバージョンを掲載します。

1. Cisco Unified CallManager に始動に CallManager Administration 画面 ログインし、System > Cisco CallManager の順に選択して下さい。
2. Cisco CallManager の設定画面が表示されたら、次の情報を入力します。Cisco CallManagers の下で、Cisco CallManager の IP アドレスをクリックします (この例では、172.16.1.3)。Starting Directory Number と Ending Directory Number を同じにします。この例では、Starting Directory Number は 1000、Ending Directory Number は 1000 です。Auto-registration Disabled on this Cisco CallManager がチェックされて、無効になっていることを確認します。設定が終了したら、Server Information の上にある Update をクリックします。
3. Cisco CallManager Administration メニュー棒から、始動に Find and List phones 画面を Device > Phone の順に選択して下さい。
4. Add a New Phone をクリックして、Add a New Phone 画面を開きます。これらは、Cisco CallManager 3.0、3.1、3.2、および 3.3 との間でわずかに異なります。双方の画面を表示します。ドロップダウン メニューから電話の種類を選択します。Cisco CallManager のバージョン 3.0 と 3.1 では、ATA 186 が Cisco 7960 という電話タイプで登録されています。Cisco CallManager のバージョン 3.2 と 3.3 では、ATA 186 が Cisco ATA 186 という電話タイプで登録されています。
5. Next をクリックして、Phone Configuration 画面を開きます。**Cisco CallManager バージョン 3.0 および 3.1 Cisco CallManager バージョン 3.2 または 3.3**
6. このステップでは、Cisco CallManager のバージョン 3.0 と 3.1 のスクリーン キャプチャを最初に示し、次に Cisco CallManager の 3.2 と 3.3 のスクリーン キャプチャを示します。ATA 186 の MAC アドレスを、MAC Address フィールドに入力します (たとえば、00070ea26032)。ドロップダウン メニューから Device Pool* を選択します。これが Default に設定されますが、特別な設定の場合は他のデバイスプールに設定することもできます。ドロップダウン メニューから Phone Button Template を選択します。Cisco CallManager バージョン 3.0 と 3.1 では、Default 7960 を使用します。Cisco CallManager バージョン 3.2 と 3.3 では、Default ATA 186 を使用します。Insert (Cisco CallManager バージョン 3.2 と 3.3 の場合は Update) をクリックします。ウィンドウは頼むことを表示する、「電話はデータベースに追加されました。この電話の Line 1 のためのディレクトリ番号を今追加するのを好みますか」。[OK] をクリックします。デバイスに電話番号を追加し

ます。Cisco CallManager バージョン 3.0 および 3.1 Cisco CallManager バージョン 3.2 または 3.3注: 上のスクリーンショットは、Cisco CallManager 3.2 のものです。Cisco CallManager 3.3 では、この他に AAR Calling Search Space というフィールドがありますが、このドキュメントには関連がありません。アーレ川 Calling Search Space に関する詳細については、[自動化された代替経路指定 グループ設定を参照して下さい](#)。

7. Cisco ATA 186 のセカンド ポートを Cisco CallManager に追加するには、次の手順を使用してください。MAC アドレスの最初の 2 つのニブルを削除して、MAC アドレスを左に詰めます。その後、MAC アドレスの右端に 01 を追加します。たとえば、00070EA26032 がポート 1 の場合、ポート 2 は 070EA2603201 になります。この場合、ちょうど第 2 ポートが登録されることを確かめるために、ATA Web 設定に行ってください。ATA を ping し、`<ATAIPAddress>/dev` を入力できる PC の Webブラウザをたとえば開いて下さい: `192.168.1.10/dev`. Webブラウザは ATA Web 設定に連れて行きます。SCCP パラメータに行き、SID1 を探して下さい; このフィールドにドットが「あることを確かめて下さい。」; これは CCM と登録されることを第 2 ポートが可能にします。SID0 は ATA のポート 1 に対応します。この新しい MAC アドレスを使用し、ステップ 4 で Cisco Unified CallManager の第 2 ポートを追加し始めて下さい。

Cisco ATA 186 が Cisco CallManager に登録されていることの確認

Cisco ATA 186 が Cisco CallManager に登録されていることを確認するには、次の手順を使用してください。

1. Cisco CallManager Administration メニュー棒から、始動にリストが掲載してある Find and List 画面を Cisco Unified CallManager に接続されるすべての項目 Device > Phone の順に選択し、『Find』をクリックして下さい。注: 必要に応じて、検索対象の MAC アドレスを指定することで、特定の電話を検索する範囲を狭めることができます。
2. ATA 186 が Cisco CallManager に登録されていることを確認します。ATA 186 の場合、フィールドは次のようになります。MAC アドレスは、Device Name and Description フィールドの下にあります。Cisco CallManager の IP アドレスは Status 列の下にあります。Cisco ATA 186 の IP アドレスは IP Address 列の下にあります。

確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

トラブルシューティング

ここでは、設定のトラブルシューティングに役立つ情報について説明します。

エラー : DeviceTransientConnection - 一時接続の試み

Skinnyデバイスで設定される Cisco ATA は絶えずエラーの Cisco Unified CallManager への接続を破棄します: *DeviceTransientConnection* - Cisco Unified CallManager イベントログの一時接続の試み エラー。

この問題のための原因は ATA ポート 2 が Cisco Unified CallManager で登録されていない、ATA でディセーブルにされませんことであり。その結果、ATA ポート 2 が Cisco Unified

CallManager で登録するように試みるとき Cisco Unified CallManager は登録要求を拒否します。

Cisco Unified CallManager イベントログのエラーメッセージはこの出力に類似したです:

```
Error: DeviceTransientConnection - Transient connection attempt.  
Connecting Port: 2000  
Device name [Optional].: SEP08a3d31f6d01  
Device IP address.: 10.10.40.29  
Device type. [Optional]: 7  
Reason Code [Optional].: 1  
App ID: Cisco CallManager  
Cluster ID: HILLCCM01-Cluster  
Node ID: 10.10.10.2  
Explanation: A connection was established and immediately dropped before  
                completing registration. Incomplete registration may indicate  
                a device is rehomeing in the middle of registration. The alarm  
                could also indicate a device misconfiguration, database error,  
                or an illegal/unknown device trying to attempt a connection.  
Recommended Action: No action is required if this event was issued as a result  
                of a normal device rehome.
```

この問題を解決するために、Cisco Unified CallManager の第 2 ポートを設定するか、または ATA でディセーブルにしてください。

- ATA の第 2 アナログ Foreign Exchange Station (FXS) ポートを無効にしてください— 0 にフィールド EPID1 か SID1 を設定してください (ゼロ)。
- ATA の最初のアナログ FXS ポートを無効にしてください— 0 に対応する EPID0 か SID0 フィールドを設定してください。

使用しないポートを無効にする使用値 0:

- Line 1 またはポート 1 のための EPID0 か SID0
- Line 2 またはポート 2 のための EPID1 か SID1

ここに述べられる 1 つが含まれている設定フィールド設定の範囲に関する詳細については [Cisco Unified CallManager ^ Cisco ATA を追加することを参照](#)してください。

SIDx は Cisco Unified CallManager によって登録することをかどうかが Cisco ATA の電話 1 および /または電話 2 ポートが可能にするために規定します。(EPIDx は SCCP のためではありません。) SIDx はこれらの値の 1 つである場合もあります:

- 0 —ポートを無効にします。ポートは Cisco Unified CallManager によって登録するように試みません。
- .。 —電話 2 ポートの電話 1 ポートおよび MAC[1-5]+01 のための Cisco ATA MAC アドレス (MAC) であるデフォルト Skinny ID を使用します。ポートは Cisco Unified CallManager によって登録するように試みます。たとえば Cisco ATA の MAC アドレスが 00012D01073D なら、そして SID0 は 00012D01073D および SID1 です 012D01073D01 です。
- 他の値は予約済みです。

ATA ポートの情報に関しては [EPID0orSID0 および EPID1orSID1](#) を参照してください。

[関連情報](#)

- [音声に関する技術サポート](#)
- [音声とユニファイド コミュニケーションに関する製品サポート](#)
- [Cisco IP Telephony のトラブルシューティング](#)

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)